



プロジェクト課題No.2
ねぎの生育状況の確認

次世代につなぐ魅力ある都市近郊農業を目指して

当センターが管轄する仙台都市圏は、東北一の都市である仙台、広大な水田が広がる仙台平野、奥羽山脈からつづく西の丘陵地に広がる中山間地域といった多彩な地勢を持つ地域を抱えており、大消費地に近いといった利点を生かして地域の特性にあった都市農業が展開されてきました。

世界的なサプライチェーンの混乱により物価が高止まりしており、農業を取り巻く状況は厳しさを増しておりますが、米から野菜や果物などの園芸作物への転換を促進するとともに、円安により拡大しているインバウンド需要を睨み、観光農園など農観連携を目指した事業を支援するなど、時代の流れを踏まえた、仙台地域の新たな都市農業の振興に取り組んでまいります。

今年度、仙台普及センターは、利府の梨、あさひな地域のねぎなどの産地再生に向けた担い手の育成や、黒川地域で土地利用型農業を営む農業法人と連携した、乾田直播栽培の技術普及、さらに、中山間地域において、地域農業の担い手として設立された農業法人の経営確立に向けた取組を集中的に支援していくこととしております。

これらの取組を通じて、仙台地域の強みを生かした魅力ある都市農業の振興を目指してまいります。

仙台農業改良普及センター 所長
松原 馨一

プロジェクト課題No.3 満開のなしほ場



プロジェクト課題No.1 (株)大輪における農地利用に関する打ち合わせ



プロジェクト課題No.4
乾田直播ほ場における発芽状況

令和6年度 プロジェクト課題（4課題）

No.1 ほ場整備を契機とした営農体制の整備【令和6年度～令和7年度】

対象：株式会社 大輪（大和町）

株式会社大輪は、大和町吉田金取北地区の地域農業の担い手として、令和5年5月に設立され、今年度は水稻24ha、大麦5.5haのほか、ねぎ、ピーマン等の園芸品目を栽培しています。当該地区は大和町の西部に位置する中山間地域で、令和3年に農地中間管理機構関連農地整備事業予定地区に採択され、将来的に地区内外の農地約54haが当該法人へ集積される見込みです。地域営農体制づくりが開始されたところですが、急激な農地集積に対応した営農計画や農地利用などが課題となっています。

普及センターでは、効率的な農地利用や収益性の確保に向けた園芸品目の導入、企業的な経営管理手法の取得や就労環境整備等を通じて、

地域の核となる担い手の経営力強化を支援していきます。



ピーマンの生育状況を確認

No.2 ねぎの次世代担い手育成による産地の強化【令和6年度～令和8年度】

対象：JA新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人（大郷町、大和町）

JA新みやぎあさひなねぎ部会は、73名が加入し、総作付面積は約13haとなっています。高齢化で部会員は減少傾向ではありますが、若手の新規就農者が新たにねぎの栽培に取り組む動きもみられます。



育苗管理について指導する様子

普及センターでは、あさひな地区のねぎ生産を維持・強化していくために、若手生産者5人を今後の重要な担い手として位置づけ、重点的に支援していきます。JA新みやぎあさひな統括営農センターと連携した巡回指導や情報誌の発行により、肥培管理や病虫害防除等の技術向上を支援します。また、高単価での出荷が期待できる「春ねぎ」の実証ほを設置し、収益向上に向けた技術の検討を進めていきます。あわせて、情報交換会や現地検討会の場で栽培技術の相互研鑽を図り、若手生産者間のネットワークづくりを支援することで、担い手育成に向けた環境を整備していきます。

No.3 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化【令和5年度～令和7年度】

対象：JA仙台利府梨部会 部会員4名（利府町）

利府町では、明治17年から続く梨の産地として有名ですが、近年は高齢化や老木化により生産量が減少しており、産地の若返りが期待されています。普及センターでは、若手生産者を将来の重要な担い手として位置づけ、栽培技術の向上や自らの経営が発展できるよう伴走型支援を行っています。

昨年度は、防鳥ワイヤー等の新しい技術の導入支援や新品種・新技術に関する研修会を開催しました。また、「利府町果樹産地協議会」が設立され、産地発展に必要な「果樹産地計画」の策定支援を行い、3月末に計画が承認されました。

今年度は、新技術導入や国補助事業の活用等を通じて、生産振興を図っていくこととしています。普及センターでは引き続き、関係機関と連携し、産地の活性化につながる取組を支援していきます。



昨年度行われた産地活性化研修会の様子

No.4 水稲乾田直播栽培技術の定着による大規模土地利用型経営体の基盤強化 【令和6年度～令和7年度】

対象：(有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

黒川地域では経営規模拡大を背景に、水稲栽培の省力化及び効率化のため大規模土地利用型経営体を中心に水稲乾田直播栽培（以下、乾直）の取組が始まっています。当地域では、今後も担い手への農地集積が予想されるなか、育苗施設の不足や春期の作業集中が喫緊の課題となっています。そこで普及センターでは、黒川地域で乾直に取り組む5経営体を対象に、収量安定化のための技術向上支援に加え、移植など他の栽培体系との作業時期や所用時間等の比較によって乾直導入の利点を示すほか、省力化に繋がるスマート農業を支援することで、対象法人のみならず黒川地域における当技術の取組拡大を図っていくこととしています。

既に各法人とも耕起や整地、播種、除草剤散布、

入水といった初期の栽培管理を終え、今年度の乾直の取組は順調な滑り出しとなっています。

今後も普及センターでは、関係機関と連携して乾直の取組を支援していきます。



播種作業の様子

お知らせ

春の農作業安全確認運動展開中！ 【農作業中の熱中症を予防しましょう!!】

全国では毎年約30人が農作業中の熱中症により死亡しています。

熱中症対策として、以下の予防のポイントを心がけましょう。特に、高齢者は、のどの渇きや暑さを感じにくく、自覚のないまま熱中症になっていることもあるため、周囲の方が協力して声かけを行うなどの対策が必要です。

【予防のポイント】

- 暑さを避ける：高温時の作業は極力避けて、日陰や風通しのよい場所で作業をしましょう。
- こまめな休憩と水分補給：喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給しましょう。
- 単独作業は避ける：複数名で作業を行い、時間を決めて連絡を取り合しましょう。
- 熱中症対策アイテムの活用：帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機を活用しましょう。

そのほか、日々の体調管理など熱中症に負けない体づくりをしておきましょう!!

イラスト出典：農林水産省ホームページ



お知らせ

みやぎの雑草防除ポータルサイトをぜひご活用ください！

水田や大豆、麦といった畑地の雑草をまとめたポータルサイトが、宮城県公式ホームページ上で公開されています。主要な雑草が写真つきで多数掲載されており、生態の特徴や防除方法が詳しく記載されているほか、雑草種によっては古川農業試験場の研究成果である「普及に移す技術」もあわせて参照できます。パソコンやスマートフォンからアクセスできますので、ほ場を見回っている時に初めて見つけた雑草や、年々残草が多くなり気になっている雑草などがありましたら、ぜひご活用ください。

みやぎの雑草防除ポータルサイト

(宮城県公式ホームページ)

<https://www.pref.miyagi.jp/site/zassou/>



綿化アサガオ類

ヒルガオ科、一年生 **雑草**

大豆に絡みついて全国的に大きな被害をもたらしている。本県では、マメアサガオ、ホシアサガオ、マルバアサガオ、マルバアサガオがみられ、2018年には庄内町緑部でマルバアサガオが確認された。

発生時期	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月

見た目などの特徴を写真つきで紹介



いよから「アサガオ」である。種毎に葉や花などに特徴があるが、生初期に識別するのは難しい場合も多い。詳細は次項参照。

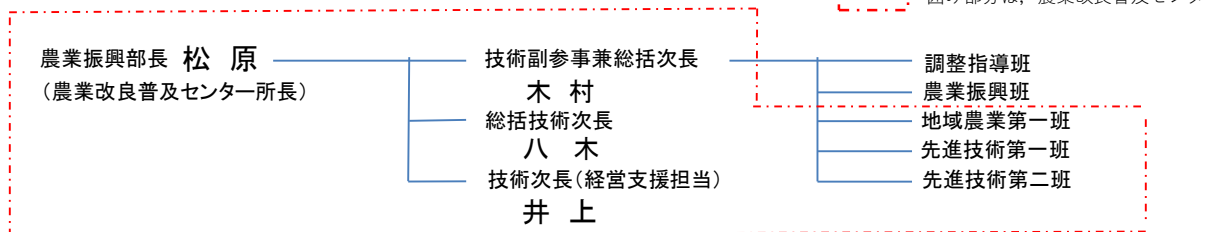
形態的特徴
生態的特徴
化学的防除法

有効な防除方法を掲載

●土壌処理剤：一般に効果は低い。フルミオWDGの効果は比較的高い。
●大豆バサダン液剤 全面アタッチメント乳剤：マルバアサガオを除いて効果は低い。幼植物には一定の効果があるので、可能な限り葉までに処理する。乾日照時は大豆バサダンの効果が劣るのでアタッチメント乳剤の方が効果が高い。高温時はアタッチメント乳剤の効果が低下する可能性がある。
●種により効果に差がある。古川農業試験場でのマメアサガオとアサガオへの試験では、両種ともアサガオの方が効果が低い。
●経口・接触処理：グリホサート系よりグルホシネート系が有効である。つる化前に処理する。

令和6年度 仙台地方振興事務所 農業振興部職員

仙台地方振興事務所農業振興部組織図



普及指導担当班

■地域農業第一班 地域農業振興計画の支援と担い手や後継者の育成に関すること

技術主任主査(班長)
大槻(作物)
(富谷、大和、大郷、大衡)

技術主査
青沼(畜産)
(仙台)

技術主査
高橋(野菜)
(松島、七ヶ浜、利府)

技師
進藤(野菜)
(塩竈、多賀城)

■先進技術第一班 作物、野菜の生産技術改善、主要農作物の種子生産に関すること

技術次長(班長)
今関(作物)

技術主幹(副班長)
上山(野菜)

技師
八木沼(作物)

技師
高橋(野菜)

技師
大越(作物)
会計年度職員
小笠原(土壌分析)

■先進技術第二班 経営管理の高度化、花き、果樹、畜産の生産技術改善に関すること

技術次長(班長)
伊藤(経営・農産物利活用)

技術主幹(副班長)
高橋(果樹・花き・経営)

技術主査
蘇武(野菜)

技師
永田(野菜)

行政指導担当班

■調整指導班 TEL 022-275-9251

農業振興地域制度、農地法、農業経営基盤強化促進対策、農業委員会・農業協同組合等の指導に関すること

■農業振興班 TEL 022-275-9250

経営構造対策、食の安全等、農業金融、米の生産調整、農薬・肥料の取り締まり、みどり戦略に関すること

みどり認定を受けましょう！！

本県では、みどりの食料システム法に基づき、農業者が化学肥料や化学農薬の使用低減などに取り組む「みどり認定」制度がスタートしています。制度では、環境負荷の低減に取り組む5年間の事業計画を作成し、知事から認定を受けることで、税制や金融面の支援等が受けられるメリットがあります。

環境負荷低減取組例では、土づくり、化学肥料・化学農薬の使用低減のほか、燃料使用低減や、温室効果ガス排出削減等の取組があげられます。また、土壌を使用しない栽培技術であっても、環境負荷低減を図る生産方式の導入などで認定申請ができます。

本県の令和6年3月末時点のみどり認定件数は13件となっています。認定申請は、ひとりでも、グループでも可能ですので、環境にやさしい農業に取り組む「みどり認定」を受けましょう！！



農山漁村からはじまるSDGsロゴマーク

宮城県における「みどりの食料システム戦略」関連計画等について(宮城県公式ホームページ)
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noseise/midorikihonkeikaku.html>



発行：宮城県仙台農業改良普及センター(仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320 (地域農業班)

022-275-8410 (先進技術第一班)

022-275-8374 (先進技術第二班)

FAX 022-275-0296 (共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

